



日本慢性期医療協会

JAPAN ASSOCIATION OF  
MEDICAL AND CARE FACILITIES

令和2年5月29日

## PRESS RELEASE

一般社団法人日本慢性期医療協会

〒162-0067 東京都新宿区富久町 11-5

シャトレ市ヶ谷 2階

TEL. 03-3355-3120 info@jamcf.jp

### 令和元年度老人保健健康増進等事業《長期療養リハビリ》実施報告

平素より当会の活動にご支援、ご理解を賜りありがとうございます。

令和元年度老人保健健康増進事業として下記の研究事業を実施いたしましたのでご報告いたします。

#### 【長期療養を目的とした施設におけるリハビリテーションの在り方等に関する調査研究事業】

委員長 鈴木龍太（日本慢性期医療協会常任理事）

#### 《目 的》

平成30年4月より介護保険施設の新たな類型として介護医療院が創設された。これを機に介護医療院を含む長期療養を目的とした施設において、中重度要介護者に対してADL、嚥下機能、排せつ機能を維持改善するためのリハビリテーションが行われることが重要であると考えられる。本研究では長期療養を目的とした施設においての中重度要介護者に対するリハビリテーションの実態把握と生活機能を維持するためにどのようなリハビリテーションが有効であるかを検討する。

平成30年度の本研究では好事例調査において、座位保持に係る支援や、看護・介護職等の多職種での生活支援が好事例の特徴として観測された。

本年は2年目の研究であり、離床や座位保持が中重度要介護者のADL(Barthel index)にどのように影響するかを検討することを目的とした。

本研究でのリハビリテーションとは、リハ療法士が行う行為だけではなく、看護・介護、多職種が、協力して行う生活支援すべてを含有するものである。

#### 《方 法》

本研究では療養病床、介護医療院、老健2429施設に2019年8月と11月の2回調査を実施した。8月にBarthel index (BI)が低い重度要介護者で11月時点でBIが改善していた利用者に関して、どのようなリハビリテーションや生活支援が有用であったかを検討した。

## 《結 果》

8月と11月の2回調査に回答いただいた施設は430施設であり、2446名の利用者に関する個人表を得た。そのうち、8月の時点で Barthel index (BI) が0点の利用者475名のうち11月調査でBIが5点以上増加した利用者50名について、効果が認められた行為を検証したところ以下の項目が関連していることが分かった。

- ① 離床頻度が毎日
- ② 一連の生活行為として座位をとる頻度が週21回以上である
- ③ PTのリハは「筋力増強訓練」「移乗動作訓練」が有用
- ④ 看護師、介護士の行為「安全確保のための環境調整」「目的動作を完遂するための声掛けや見守り」が有用

## 《結 論》

重度要介護者でも離床、座位保持訓練を実施することで改善を得られることがある。

リハ職だけでなく、看護・介護、他職もチームでそれぞれの特性に合った訓練を実施することが有用である。

\*本研究報告書は、日慢協ホームページ調査報告よりご覧ください。

以上